

3
二 沖繩作戰
於今ル 備立歩兵第二七三大隊
實資料

昭和二十二年三月三日
第三十三軍残務處理部

昭和十九年十一月十七日
獨立步兵第二七三大隊

獨立步兵第二七三大隊 行動概要

編成業務
及 待機

自昭和十九年十一月十七日
至昭和十九年十一月二十一日

輸送業務

自昭和十九年十一月十七日
至昭和十九年十一月二十一日

沖澤本島
防衛警備

自昭和十九年十一月十七日
至昭和十九年十一月二十一日

昭和十九年十一月十七日將校及下士官官舎同月十八日築
各中隊第三部隊三三集大阪市天王寺區
業學校二於獨立步兵第二七三大隊編成同
月二十日編成完結十一月二十一日至九日間幹高並受
命六月廿日實施又

十一月二十一日大阪駅出發同日二十三日所到駐在島
二宿營同月二十七日由司港出發十一月二十日廢除
港營十一月九日再見島港出帆

十一月十五日那霸港上陸沖繩縣島尻郡海邊町
學校三宿營駐留又十一月二十一日分型ハチダス完全
作業部隊離十有六日第一中隊機附天竺島
中隊那波上高地永野及二第一中隊東
總上隊那霸市第一團長學校二砂駐同

近ノ陣地構築ヲ從事スルニ師團命令ニ遵テ部隊
ノ裝ヲ一部改裝シ速射砲小队ヲ步兵砲中队ニ編
各小銃中队ヨリ若干要員ヲ差出シ之ヲ教練ス
實施ス

西北郊警備ノ爲メ首里市

昭和三年二月廿八日首里市
未吉町ニ本部第一中队大谷町ニ第二中队
隊ヲ波上高地ニ第三中队隊經塚ニ作業小隊大平
町ニ歩兵砲中队ヲ配陣地ノ構築ニ從事す部隊
ノ全カヲ傾注シ日夜陣地ノ構築ニ精勵ス
其間米空軍ノ空襲ニ厚クアリタルモ常ニ克ク之ヲ
戰セリ

三月一日昭和三年年度現役兵(沖繩縣公員一四五名
入營勤當五五名)外當日空襲ノ高部島公員
者十名亦參(三月十日防衛召集兵七〇名入隊之

新ノ教育訓練ヲ實施ス

三月二十三日敵機動部隊沖繩本島ヲ包圍艦
載機ヨリ艦列ナル銃爆更ヲ受テ艦砲射撃
ニ全島震震該セリ

三月二十四日甲号戰備下令ト共ニ部隊八六二師
團予備隊トシテ現在地ニ於テ戰鬥配置ス
ト共ニ第三中队(附小隊)ヲ獨立歩兵第二
二大隊ニ配屬ス敵艦砲射撃及空爆ニ對シテ
艦列ヲ極メ四月一日有力ナル大部隊ヲ以テ遂ニ
陸軍力ナル橋頭堡ヲ占領セラレリ

我軍必死ノ決戦ニ空シテ遂ニ後退セシムルニ
隊ハ首里市中頭部前田部落進四月九日西原
村棚原一四高地ニ於テ獨立歩兵第一四大隊ニ
配屬シ同地附近ニ出陣シ殊ニ敵前街ニ部隊
ト交戦シカ防衛ニ努メタリ

西原村前街四月十日獨立歩兵第十一

棚原附近
戰
西原村
西原村附近
西原村附近

戰
 奪回戰
 自昭和四三
 至昭和四三
 自昭和四三
 至昭和四三
 自昭和四三
 至昭和四三
 自昭和四三
 至昭和四三

前田附近
 戰斗

自昭和四三
 至昭和四三

大隊二配属し、敵陣五嘉敷村及
 當山村へ前進し、前田陣地に於て二重戦車
 二輛、自有力ナル敵ト交戦、其時敵軍
 二於て四月十六日第一中隊主力を金沢
 日第一中隊主力を全滅せり、
 本隊斗に於て部隊長榊瀬大尉、厚々現地
 二赴き、第二中隊及第一中隊、戦斗指導ニ努
 め、其時化装し、真容ヲ誇ル敵ニ我軍制ヲ見せ、戦
 二屢々降参、其時我軍部隊、始ト全軍員全
 〇一遺地ニ散ラシメリ
 四月二十日西原村棚原一六〇高地ニ転進シ、
 防備ニ當リ、其時残存諸隊、散集ニ努メ、
 四月二十七日、三旅團予備隊トシテ首里市東
 吉野ニ転進セリ
 四月三十日獨立歩兵第一二大隊ニ配属シ、前

田村一五〇高地ニ前進、強力ナル敵、攻取ヲ克ク、其時五月二日歩
 兵第三聯隊第一隊(志村六尉)増援ヲ得、五月四日、果敢
 ル晝間攻取ヲ支援シ、出東ヲ容易ナラシメ、

然レ共増列ナル敵、迫更砲弾及果敢ナル巨
 砲ヲ攻撃シ、高麗残存第一中隊及作業小
 隊、主力機関銃一小隊、大部分ヲ消耗

首里防衛

戰斗

自昭和四三
 至昭和四三

自昭和四三
 至昭和四三

五月六日獨立歩兵第一三大隊、三三旅團予
 備隊トナル、其時輕傷連者ヲ出動シ、其時
 カニ所合、輕傷連者ヲ出動シ、其時
 直轄トシ、五月十日首里市平良橋附近
 陣地ニ転進シ、力防衛、其時
 力、補強ニ努メ、金精心、師團經理部
 納重要書類ヲ焼却シ、其時
 歩兵聯隊中獨立歩兵第一三大隊ニ配属シ、

大里附近
ノ戦斗
自署二六二
至二〇六九

六月十日、師團命令ニ基キ、最後ノ據点島尻部、厚又、仁海岸、小渡、車准、最後ノ決戦ニ備ヘ、部隊ノ余力ヲ併合セリ、師團命令ニ基キ、部隊ノ臨時改編ヲ實施シ、獨立歩兵第三大隊ニ配属、第三中隊ヲ編成シ、(一)並獨立歩兵第二大隊配属ノ歩兵中隊、各原前編ニ復師ヲミラレ、第三中隊ノ残存將兵ヲ獨立歩兵第三大隊ニ編入シ、第一中隊ノ残存者ヲ獨立歩兵第一二大隊第一及第二中隊ニ編入、本部作業小隊歩兵砲中隊機関銃中隊ノ残存者ヲ以テ獨立歩兵第一二大隊重火器隊ニ編成、隊長、梅澤大尉、獨立歩兵第二大隊ノ機関銃小隊ヲ編入セリ、六月十八日、獨立歩兵第二大隊ハ、獨混雷隊團ノ戦斗ニ協力ス、厚又、仁、東側高地ニ前進、遂ニ敵物獲テ、下ナキ、該高地ニ於テ善戦ス、レトモ

誇ル敵ノ猛攻ヲ支、得ス、六月二十二日、再ヒ小渡海岸ニ退、驅ス、止ナキニ至レリ、六月二十日、残余ノ部隊ヲ數名ヨリ成ル小部隊ニ分テ、固頭部方回ニ脱出ス、ソノ負傷者ヲ含ム、一部ヲ海岸沿ヒニ主力ノ敵中突ニ列シ、最後ノ斬込ヲ敢行セリ

備考

部隊トシテ行動ハ、茲ニ於テ終結セリ

昭和三年一月一日

降人馬異動ノ関スル件

獨立歩兵第二
七三大隊
(球第一四七〇部隊)

編入

昭和三年三月一日、昭和三年度現役兵(沖繩縣出身者)五五名、(島根縣出身者)三名、(即戦者)一名

轉

入

出

張

氏名等不詳 生存者二三名在凡毛氏及
不明取和壬午三月十日防衛及集兵
中頭部西原村出身 入隊生存者數名
在凡毛氏名不詳ナリ

戰前内地遷送二三名アリ名モ留守部保存
留守名簿ニ於テ整理済 持孫枝葉者西川
軍管中部第八十四部隊(高地)ニ転出
(有日不明)

丁三
才三